SCREEN
MEDIA TECHNOLOGY

RitecolorNavi

印刷診断サポートサービス

CTPデジタルカラーマネージメント導入と印刷の標準化を支援するコンサルティングソリューション

大日本スクリーンの「RitecolorNavi（ライトカラーナビ）」は、長年培った製版のノウハウとCTP技術を核に、印刷の標準化を目指すお客様の支援を行うコンサルティングソリューションサービス商品です。

今日の印刷業界において、益々加速するコスト削減・納期短縮・品質向上の要求に応え、厳しい競争に勝ち残るためには、安定した品質の印刷を効率的に生産するためのデジタルカラーマネージメントが不可欠です。Japan ColorやJMPA Colorをはじめとした印刷基準の規格化、CTPの普及といったデジタル環境の進展により、刷版出力までの工程では生産の効率化や品質の標準化が進む一方、印刷工程においては色見本をターゲットにした印刷機での色調整に依存しているケースが少なくありません。

トータルに最適化されたデジタルカラーマネージメントを実現するためには印刷工程での色管理の標準化が不可欠ですが、自社内のスキルだけで推進するのはなかなか難しいと苦慮されているお客様もあるのではないでしょうか。

RitecolorNaviは、測定診断により作成されたお客様ごとの印刷基準をターゲットに工程全体をカラーマネージメント。デザイン制作の早い段階から仕上がり品質を確認したり、品質の安定化を図ることができる、合理的なワークフローの構築をサポートします。近年増えつつあるRGBデータでの入稿、高精細印刷における印刷物の標準化など新しい技術トレンドへの対応もご提案。お客様の目的に合わせた様々なサポートメニューをラインアップし、CTPデジタルカラーマネージメントを強力に支援いたします。

印刷の標準化と自社管理ができていますか!!

印刷は個別印刷基準で刷ればよい時代から標準印刷で刷れるかどうかが問われる時代へと変わりつつあります。RitecolorNaviのサービスを導入していただくことでお客様の印刷を標準化し、印刷品質を一定以上に保つための品質基準を定めることができます。このように標準印刷を確保することで、校正刷りに合わせ込む印刷から、標準印刷に合わせたカラーマネージメントを推し進めることができます。

社内環境構築と標準目標設定

まず「標準印刷に取り組む」お客様の強い意思が必要です。その上で目標を設定し、お客様の推進グループを編成します。グループのメンバー全員が同じ言葉でコミュニケーションできるよう、CMSの勉強会も必要です。

キックオフと社内の意思統一
中心となるキーマンを選出し推進ワークグループを編成します。

CMSショートセミナー
トレーナによるショートセミナーで、CMSと標準印刷への理解を深めます。

社内環境の調査・確認
印刷機の現状・用紙・インキ・工場環境等の印刷変動要因をチェックし後の分析の資料とします。

目標設定とスケジュール設定
目標を定め、どのサービスを受けるかをディスカッション、設計していただきます。

現状で基準チャートの印刷

印刷の標準化は、お客様の日常の生産活動のベストコンディションを定めることです。CTPにより版の作成までは極めて安定化させることができます。まず版のコンディションを整え、その上でお客様の印刷の変動要因を絞り込みます。

CTP基準確認
担当技術者がお伺いしCTPの調整が正常であるかチェックをいたします。

基準チャートを印刷
現状の作業環境で基準チャートを出力し標準状態で印刷していただきます。
普段の作業環境で印刷していただくことで問題点を浮き彫りにします。

印刷結果の分析と現状の掌握

基準チャートを測定し数値化します。
結果を解析し現状のお客様の印刷コンディションを洗い出します。

印刷物を専用機器にて測定
出力した刷版と印刷物をお預かりし各種項目を専用機器で測定し数値化します。

測定結果を解析し現状を数値で掌握・今後の方向性検討
専門の担当者が測定数値と聞き取りした環境を含め問題があるか解析し報告書を作成します。

現状の改善と基準チャートの印刷

お客様の現状の印刷コンディションの問題点、改善点を明らかにし実施可能な是正策を実施します。
再度基準チャートを印刷します。

環境を含めた改善提案の実行
報告書を元に担当者に環境を含めた問題点・改善点の提案をご説明させていただきます

基準チャートの印刷
提案させていただいた内容で再度基準チャートを印刷していただきます。

自社標準確定、各工程への環境構築

標準印刷が確定すれば管理項目を数値で定めます。標準印刷のカラーマネージメントを推し進めるためにお客様の基準プロファイルを作成し基準プロファイルを元に各工程のCMS環境を構築します。

標準印刷が持続できる環境構築
標準印刷が確定すれば、再度測定分析を行い管理項目を数値で示します。

基準プロファイル作成
基準印刷物を元に基準プロファイルの作成を行います。

各工程の環境整備（プルーフ、モニター）
基準プロファイルを元にお客様と共同で各工程のCMS環境の構築をサポートさせていただきます。

目的にあわせた最適なサービスを取り揃えております。

「印刷の標準化に取り組みたいが・・・。」
「自社で可能だろうか？」と、
お悩みのお客様に。

プランニングサポート

プロジェクトリーダーに、CTPデジタルカラーマネージメントの概要やステップについてご説明。ご相談のうえ、サポートの規模や必要なサポートメニュー、スケジュール、作業内容などを決定します。

「CMS ショートセミナー」、「社内環境の調査、確認」、「目標設定とスケジュール設定」をおこないます。印刷の標準化へのファーストステップです。

「自社でも取り組めなくはないが、
ここは専門家にお願いしたい。」
そんなお客様に。

印刷物診断・基準作りサポート

当社標準原稿をお客様のCTPで出力し、標準印刷で印刷。その結果を測定診断し、印刷物標準化のためのデータを作成します。
初回訪問、結果報告訪問のほか、途中経過報告も実施。半年後・1年後などの定期的な診断も可能ですので、ご相談ください。

「CTP 基準確認」、「基準チャート診断 (2 回)」、「改善提案・管理項目の数値化」をおこないます。「印刷物診断・基準作りサポート」を受けていただくには、事前に「プランニングサポート」を受けていただく必要があります。

「自社基準はあるんだけど、ターゲット
プロファイルだけ作って欲しい。」
そんなお客様に。

プロファイル作成サポート

お客様の標準印刷結果を測定。これに基づき、ターゲットプロファイルを作成します。

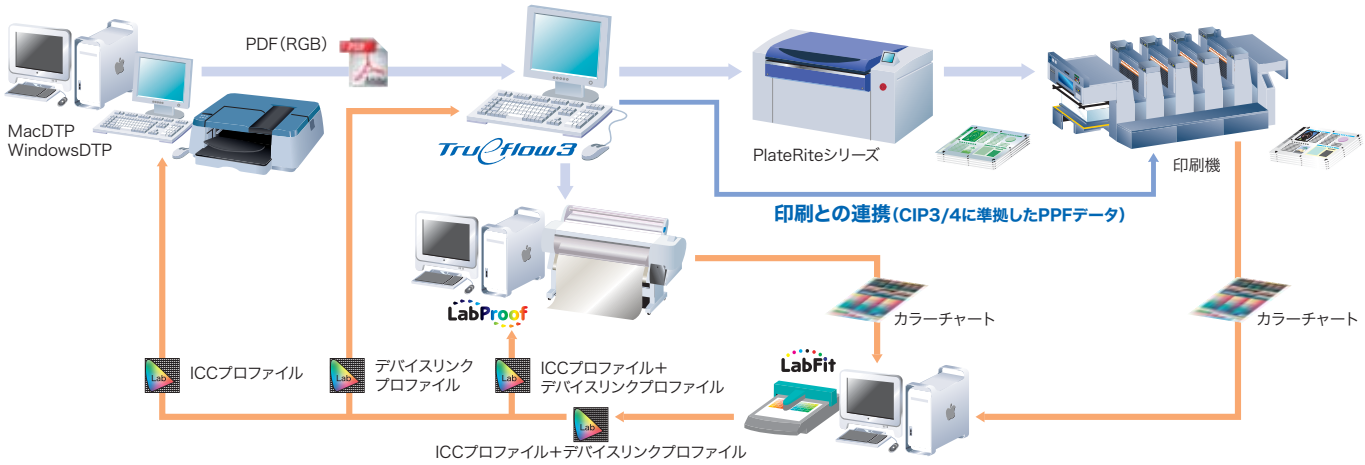
お客様の標準印刷物をお預かりさせていただければ、「プロファイル作成サポート」は、個別にご用命いただけます。

「自社プロファイルはあります。モニター
やプルーフ環境の相談に乗って欲しい。」
そんなお客様に。

CMS 環境構築サポート

カラーマネージメントのための色評価の環境を構築します。当社が長年培った色管理のテクノロジーをカラーマネージメントに集約。プルーフ校正のための環境構築のほか、モニターや照明についてもサポートします。

プルーフ環境は当社「LabProof」が対象になります。また、モニター環境も当社推奨モニターが対象です。お客様の ICC プロファイルをお預かりさせていただければ「CMS 環境構築サポート」は、個別にご用命いただけます。



カラーマネージメント 用語集

ICCプロファイル
（アイ・シー・シー・プロファイル）

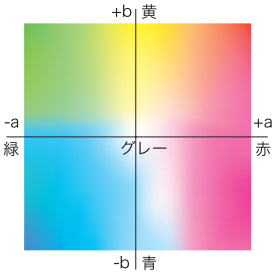
モニタ、スキャナ、プリンタ、印刷機などの各デバイスの色再現を数値化し、ICCの規格に沿って記述したファイルのことです。ICCは「国際カラー・コンソーシアム」のことで、1993年に設立。大日本スクリーンもメンバーになっております。

デバイスの色特性は変換テーブル（ルック・アップ・テーブル）で表され、必ずCMYK（RGB）→LabとLab→CMYK（RGB）の、双方向のテーブルを記載することになっています。

Lab
（エル・エー・ビー、CIELAB:シーラブとも言います）

正確には、CIE 1976 L*a*b*と言います。L*は、エル・アスターなどと呼びます。国際照明委員会(CIE)が、1976年に推奨した表色系です。色を客観的数値で表すことができ、特にLabは、人の色感覚に近い、均等な色空間としてよく使われます。

Lは明るさで、0(黒)~100(白)、aは+aが赤方向、-aが緑方向です。bは+bが黄方向、-bが青方向です。グレーはa、bとも0です。



ΔE
（デルタ・イー）

色と色(Lab)の距離、すなわち色差の事です。色見本などの許容差は3程度、コーポレートカラー等は6程度と言われていますが、グレー近傍では3未満でも差異がわかる事があります。

デバイスリンクプロファイル

入力と出力のプロファイルをドッキングし、例えばLab値を介さずCMYKからCMYKへ直接変換できるプロファイルです。通常のICCプロファイルは各デバイスの色再現の数値化ですが、デバイスリンクプロファイルはこれにキャリブレーション等を加えることができます。

ガマット

（gamut:色域、「しきいき」と言います）

ガマットはそれぞれのデバイス(モニター、インクジェット、印刷)が再現できる色再現領域を表します。

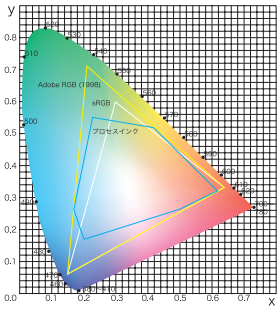
インテント

異なる色空間の間では互いに存在しない色があります。色変換を行う場合はこれをマッピング(存在しない色をどの様に表すか)する必要があります。

ICCではその方法をレンダリングインテントとして,知覚・彩度・相対・絶対という4つの方法が使われています。

AdobeRGB
（アドビ・アール・ジー・ビー）

アドビシステムズ社が提唱したRGB色空間の定義です。sRGBなどに比べて広い色域を保持できる為、印刷への親和性が高くなっています。



sRGB
(エス・アール・ジー・ビー)

モニターやデジタルカメラなど多くのパソコン周辺機器で使われている、一般的なRGB色空間です。

Japan Color
（ジャパン・カラー）

社団法人日本印刷産業機械工業会のISO/TC130国内委員会が作成した国内唯一のオフセット印刷の色基準です。現在、枚葉標準印刷見本として、「Japan Color 2001」が配布されています。大日本スクリーンも「Japan Color 2001」契約ベンダーとなっております。

JMPA Color
（雑誌広告基準カラー）

日本雑誌協会が中心になり、印刷会社、広告代理店、出版社の協議によって作成された規格で、雑誌広告の校正をDDCPで再現する色基準が決められています。

分光光度計・分光濃度計・濃度計

標準印刷をおこなうには、ハンディな測定器が必要です。測色には分光光度計が、濃度測定には濃度計が使われます。測色も濃度測定も可能な分光濃度計が便利です。

SCREEN MEDIA TECHNOLOGY

R100 本カタログは、100%再生紙を使用しています。

注意 ご使用の前には、取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル http://www.mtjn.co.jp/
東京支店／03(3237)3111(代) 大阪支店／06(6268)6600(代) 名古屋支店／052(532)3200(代)
福岡支店／092(436)7081(代) 北海道営業所／011(726)0707(代) 東北営業所／022(224)1741(代)
新潟営業所／025(241)0112(代) 静岡営業所／054(281)0955(代) 長野営業所／026(224)5770(代)
金沢営業所／076(292)2345(代) 京都営業所／075(671)1145(代) 中国営業所／082(264)6451(代)
四国営業所／087(837)8151(代)

大日本スクリーン製造株式会社 メディアテクノロジーカンパニー
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目 http://www.screen.co.jp/
デジタル印刷営業部
東京／03(3237)3136(代) 大阪／06(6268)6606(代)
IT営業部
東京／03(3237)3147(代)

■サービス・サポート提供
株式会社 エムテイサービス東日本 http://mtsej.co.jp
〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目32-22 大塚東池袋ビル6F 03(5952)6011(代)
株式会社 エムテイサービス西日本 http://mtswj.co.jp
〒541-0053 大阪市中央区本町1丁目8-12 日本生命堺筋本町ビル10F 06(6263)6185(代)

※本カタログは、弊社の Fairdot 2 で印刷しています。
※本カタログは、弊社の千都フォントを使用しています。
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。
※本カタログの仕様ならびに商品デザインは改良のため予告なしに変更されることがあります。

No.115-004 2005年9月発行 04FSI(R1-1)